

説教題：神の恵みの栄光のために - 人を通して教会の結束と多様性、そして力

OICの皆さん、お早うございます。そして父の家によろこば。

今日は、聖霊の靈感を受け、使徒パウロが書いたエペソ書が続けます。これはエペソ人への手紙であり、聖書が印刷された後には、イエスの花嫁の一部であるすべての教会への手紙となりました。先週、私たちは、パウロがエペソの信徒に、つまりすべてのクリスチャンに、キリストの愛が人知を超え、聖霊によって内なる人を再創造することをどのように指示したかを見ました。今週は、イエスが召された人々の多様な賜物を用いながら、神がどのように教会に一致を生み出すかを学びます。これらの指導者たちは、神がその召命のために、より多くの力を必要とします。ですから、神は彼らを他のクリスチャンたちよりもリーダーシップのために力づけます。指導者たちは、教会での奉仕のためにイエスの羊を導き、備えさせます。

では、エペソ書4章を読みいきましょう：

(エペソ 4.1)：「1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」パウロは、会衆であるエペソの信徒や他の異邦人クリスチャンに、彼らのために自分が投獄されたことで、彼らに生き方を教える権利が与えられたことを思い出させます。

(エペソ 3.13)でみるように、「…私の受けている苦しみは、そのまま、あなたがたの光栄なのです。」もし、この節で止まっていたら、それは大きな、あるいは背伸びした命令や指令のように思えるでしょう。しかし、たとえ、それ以上の指示がなくても、自分が受けた召命にふさわしい生き方をすることです。

しかし、パウロは、(エペソ 4.2)でこれをどのようにするのかを教えてください：「2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」原語のギリシャ語では、「完全にへりくだる」とは、より明確に、「心の低さ、謙遜さ、慎み深さ」を意味します。このように、ギリシャ語の「完全にへりくだる」の類義語のうち、「心の卑しさ、謙遜さ、慎み深さ」は、イエスが教えられたことに最も近いと思います。

使徒パウロも (ピリピ 2.3)でこう書いています：「3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。」

謙遜について説教するときはずっと、偽りの謙遜や自己卑下と呼ばれるものを避けるように気を配っています。このような態度は自己嫌悪に近いです。情報量が多く、技術的な機械も人間の能力も神格化されている現代社会では、多くの人が自己嫌悪に陥っています。日本社会はまた、ミスを犯さないことを基本とする個人の価値観がさらに強いです。これは自己嫌悪を助長します。イエスは (マタイ 22. 38-39) において、最も偉大

な戒めについてこう言われたことを思い出してください： 「38 これがたいせつな第一の戒めです。39『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」

また、パウロは（エペソ 5.29）でも次のように言っています：「29 だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。」

しかし、（エペソ 4.1）には別のことが書かれています。もう一度見直すに値します：  
「1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」 パウロが言っているのは、イエスが新しく生まれ変わったクリスチャンを導いたかもしれない新しい道のことではありません。エペソの信徒たちは、すべての新生クリスチャンと同じように、すでに召され、神から子としての地位を授かっています！ですから、この召しは神の子となることなのです！

私たちは召されています： 1）（ローマ 1.6）でイエスに属する者、2）（ローマ 1.7）でイエスの聖なる民、3）（ローマ 9.26）で「神の子」；そして（ガラテヤ 4.6-7）では、神の子供達：「6 そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父。」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。7 ですから、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。」

まずこのことは、イエスの御名のために他の人々に仕えるという謙虚さに従いながら、クリスチャンの「戦略的自己重要性」にとって不可欠です！ 私たちは、（エペソ 1.1）にあるように、片足を地上に、もう片足を天に置いて、すでに天の領域や場所にいます。私たちはここでも、パウロから、あなた方が受けた召命にふさわしい生き方をしなさいと教えられている。そして（エペソ 4.2）：「2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」

そして同時に、もし私たちが自分自身を、すでに「神の子たち」であり、すでに「神の子」である、それ以下であると考えたら、神は侮辱されていることを意識します。これもまた……もうひとつの偉大で輝かしい緊張です。

ブルース牧師、（エペソ 4.1）にある召命にふさわしい生き方をするために、**慎み深さと自分が神の子であるという自信**をどのように両立させればいいのでしょうか？ **良い質問**です。謙虚でありながら、同時に肉体を持つ全能の神であるイエスだけが、これを完璧に行いました。しかし、私たちは自信を持ってイエスの足跡をたどることができません。数年前、私は自己卑下に苦しんでいたある牧師が書いた本の中で「**戦略的自己重要性**」という言葉を見ました。謙遜や慎みと、神の子どもたち一人ひとりに対する神の無限の重要性との間の緊張関係において、私はこの本の言葉が役に立つと思いました。神はあなたの人生に計画と戦略を持っておられ、あなたはそれを果たすために神にとって重

要な存在なのです。{このことについては、水曜夜の聖書研究シリーズで詳しくお話する予定です： あなたの召命を見つける }

### 教訓その1

クリスチャンは、人を愛し仕えるために自分を憎む必要はないのです。神は、私たちが「神の子」であることを確信できるように成熟させることを喜びとされます。イエスは、御子であることに自信を持ちながらも、奉仕においては慎み深く謙虚であるための道を示してくださいました。私たちはただイエスの模範に従うことを選ぶだけではだめで、選び、そして祈り、私たちの人生においてイエスの戦略的な自己重要性を私たちのうちに創造して下さるよう神に求めなければならなりません。そうすれば私たちは、イエスが他者への奉仕における真の謙遜のために、神が私たちがどのように自由にして下さるかを示すことができます。

さて、パウロは（エペソ 4.2）で次のように指示しています：「2…愛をもって互いに忍び合い」生まれ変わったばかりのクリスチャンとして、私たちは皆、自分自身を含め、クリスチャンが主のように完璧であることを期待していたと思います。しかしすぐに、彼らも私たち自身も、救い主ほど完璧ではないことに気がつきます。すべての神の子は、聖書の（ヨハネ 15.5）にあるように、ぶどうの木につながれています：「5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」

神は、イエスとともに歩み、イエスとの関係を積極的に保とうとし、そのために私 {イエス} のうちにとどまろうとするクリスチャンに、多くの実を結ばせる方法をもっておられる。多くの実を結ばせます。『ぶどうの木』にとどまることの奇跡的な結果は、神の御霊が愛をもって互いに結ばれるという結果を引き起こすことです。もちろん、私たちは愛し、憎まないことを選ばなければならなりません！ しかし、イエスの御霊だけが、クリスチャンが意見の相違を持っているときに、その愛の奇跡を起こさせ続けることができるのです。（ヨハネ 15.5）で「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができません」とイエスが言われたように、これも神の御業です。私たちクリスチャンの内にあるこの奇跡は、私たちの意志と祈りと神の恵みを必要とします。

この手紙の次の4節、エペソ 4.3-6 は、旧約のシエマを思い起こさせます：神は唯一です。神は三位一体であるという正しい神学は、神が一つであるという力強い思いを決して奪うものではありません。ヤコブ書（ヤコブ 2.19）のなかでこれを見ることが出来ます：「19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。」したがって、**教会における一致は、神の性質と性格を示すものです！**

（エペソ 4.3-6）：「3 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。4 からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。6 すべてのものの上

にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。」(エペソ 4.3)においてあらゆる努力をし、(エペソ 4.1)において召命にふさわしい生き方をする責任について、数分前に述べたことを繰り返さなければなりません。私たちの人生は、祈りによってのみ、私たちが目指す実を結ぶことができます。

「私たちクリスチャンの中にあるこの奇跡には、私たちの意志と祈りと神の恵みが必要なのです」。

## 教訓その2

もしあなたが、聖霊に罪を確信させられてからしか祈っていないとしたら、それは必要な「成熟の祈り」が欠けています。イエスの血潮の下にある私たちをすぐに赦してくださる神を賛美します。しかし、聖書、特に新約聖書のすべての教えは、罪に関係なく成熟するために祈る必要性に該当します。成熟したクリスチャンの祈りの生活を形作る包括的な聖書箇所は、(詩篇 127.1)にあります：「1 主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし。主が町を守るのでなければ、守る者の見張りはむなし。」新約聖書における「家」とは、クリスチャンの内なる人、聖霊の宮のことです。

(エペソ 4.3-6)にある幾つかのフレーズにハイライトを当てると： 霊の一致、体 {教会} は一つ、御霊はい一つ、望みは一つ、主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、すべてのものの父なる神は一つ。

エペソ人への手紙のこの箇所から、一冊の本が書けるほどであり、多くの注解者がそうしてきました！ この4節における重要な釈義はこうです： イエスを信じる者一人ひとりが、自分の人生において、これらの一致の条件をすべて、ある程度は経験しているということです。神からの救いの賜物の後、私たち一人一人が外に向かって行う最初の従順の行為は、通常、水のバプテスマを受けることです。しかし、私たちは皆、このような素晴らしい一致点を共有しているのです。平和のきずなによって御霊の一致を保つことができるかどうか試されるとき、私たちはこのことを思い起こすべきです。

パウロは今、教会に対するイエスの賜物である指導者の多様性を教えています。これは、パウロの書簡のこれまでの統一性を強調する部分に対する反論しているように聞こえます。しかし、パウロが(エペソ 4.7-8)において何を言いたかったのかを、私は明らかにしようと試みてみます。従って次のようなことを意味していました：「7 しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。8 そこで、こう言われています。

「高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に賜物を分け与えられた。」(詩篇 68.18)：「18 あなたは、いと高き所に上り、捕われた者を取りこにし、人々から、みつぎを受けられました。頑迷な者どもからさえも。神であられる主が、そこに住まわれるために。」

(エペソ 4.8) は、(詩篇 68.18) からの引用ですが、主の民イスラエルが物理的な敵、それも反逆者たちに対する戦いを通して、主が勝利するという否定的な用法を逆転させています。肯定的な転回や逆転は、イエスの霊が最初の使徒たちに旧約聖書を変更する権限を与え、神の言葉であるイエスが現れ、復活の後、かつてないほど神の国の到来を人々

に告げ知らせたのです！ 旧約聖書と新約聖書における主の戦いにおいて、イエスが多くの捕虜を取られたのは、旧約聖書では物理的な敵を、新約聖書では霊的な敵を倒されたことを意味します。このように、十字架上でサタンの頭を打ち砕いた時、「捕虜を取られた」のです。こうして、(創世記 3. 15/NASB1995) において、神がエデンの園でサタンにかけた預言的な呪いが成就しました：「15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き (bruise)、おまえは、彼のかかとかみつく (bruise)。」 私はここでは NIVUK のために NASB 訳を使用しました：「彼はあなたの頭を砕き、あなたはかかとかみつくとあります。また、アンプリファイド訳 (創世記 3. 15/AMPC) では、「わたしは、あなたと女との間、また、あなたの子孫とその子孫との間に敵意を置く。」 2024 年 4 月 21 日 (日) のメッセージの中で、私はこう説きました： **イエスの十字架-栄光の勝利.....** 頭を砕かれた蛇は、死んだ蛇である。 どれほど**悪魔が死んでいけばよいの**にとおもうことかと、私は思います。しかし、聖書は真実を語っていますが、彼は傷ついたが、クリスチャンにとっては依然として危険な敵です。 イエスは、サタンから死の力を取り上げる傷を負わせました。(ヘブル 2. 14/AMP) に書かれているように：「14 それゆえ、[これらの]子らは血肉[人間の肉体的性質]を共有しているので、御自身 {イエス} も同じように[肉体的性質、しかし罪のない]性質を共有し、[死を経験する]ことによって、死の力を持つ者、すなわち悪魔を無力 (無益な、無気力な) にするためであった。」 キリストのためのクリスチャン兵士、つまり新生したクリスチャンにとって、永遠の命の賜物は、サタンに対するさらなる自信を与えてくれます。サタンは誰に対しても、特にクリスチャンに対しては、死を武器の一つとして行使することはできないのです。

私はこの時間を使って、エペソ人への手紙がいかに励ましの書であり、またクリスチャンが悪魔とその使者たちに打ち勝つ以上の者となるための戦争マニュアルであるかを明らかにしました。パウロは、サタンに打ち勝つ力を持つ信者の立場を明らかにした後、(エペソ 4. 8) において、イエスがクリスチャンにさらに具体的かつ特異な力の賜物を与え、その民に賜物を与えたことを語ります。

しかしその前に、パウロはイエスが御父への従順のために選んだ謙遜について詳しく述べています。(エペソ 4. 9-10)：「9—この「上られた。」ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、ということではなくて何でしょう。10 この下られた方自身が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方なのです。——」

このフレーズは、より低い、地上の領域に下ったのでしょうか？ これは英訳では明らかに見えます。しかし、ギリシア語の descended を意味する  $\kappa \alpha \tau \alpha \beta \alpha \iota \nu \omega$  (カタバイノ) の他箇所参照には、「下へ来る、下へ行く、下降する」という意味があります。これらの聖句は、キリストの神性と謙遜さをさらに浮き彫りにしています。

$\kappa \alpha \tau \alpha \beta \alpha \iota \nu \omega$  (マルコ 1. 10)：「10 そして、水の中から上がられると、すぐそのとき、天が裂けて御霊が鳩のように自分の上に下られる ( $\kappa \alpha \tau \alpha \beta \alpha \iota \nu \omega$ ) のを、ご覧になった。」

καταβαίνω (ヤコブ 1.17) : 「17すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下る (Καταβαίνω) のです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。」

**人間にとって、イエスほど良い贈り物はないのです！**

賜物について短く見ましょう。(エペソ 4.8) : 「8そこで、こう言われています。「高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に**賜物**を分け与えられた。」 **賜物**の原語のギリシャ語では、ギフトは δόμα (ドーマ) です。これはプレゼントや贈答品を意味し、具体的な贈答品の種類は記されていません。聖書の(1コリント 8.6)に語られています : 「6私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。」 このように、イエスが十字架上で私たちのために買い取られたすべての賜物、δóμα (ドーマ) は、父から来たものであり、主イエス・キリストを通して来るものです。また、(ヤコブ 1.17)にも天の光の父からとあります。神は三位一体です。したがって、聖霊は実際に、上からの賜物を各クリスチャンの内側に受け取らせるのです。そして、(ローマ 8.9)にあるように : 「9けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。」 神の素晴らしい賜物は、信仰によって新しく生まれ変わったことに始まり、すべて、キリストを通して、内在する聖霊によって私たちにもたらされます。私は、聖霊がすべてのクリスチャンの内に起こさなければならぬすべての善い賜物、δóμα (ドーマ) と、(1コリント 12.1)で御霊はクリスチャンが受け取るように選ばれるこの御霊の賜物や霊的賜物、pneumatikos (ギリシャ語) との区別を明確にしたかったのです。これらの超自然的に経験された賜物は、(1コリント 12.4)で、さまざまな種類の賜物、カリスマ/ギリシア語としてさらに詳しく説明されています。主がそんなに長く天国におられるのであれば、来年のいつか、コリント人への手紙 第一 12章にあるような賜物についての説教をしましょう！

神からの賜物に関するこれらの詳細が私の中で重要なのは、神は罪深い人間も、私やあなたのような聖なる聖徒に造り変え、**教会への賜物**とされることを理解するためです… (エペソ 4.11-13)で私たちが見ているように : 「11こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。12それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、13ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」

### 教訓 その3

(ヨハネ 15.5) でイエスが私たちに教えてくださったことを思い起こしましょう。イエスは天におられるので、約束されたように、聖霊によって私たちと共におられます。ですから、教会の働き人である皆さん、あなたが前で説教をしようが、聖書を教えようが、

事務室で教会の予算のバランスをとろうが、ワーシップチームで歌おうが、OICの役員会のメンバーになろうが、説教を日本語に翻訳しようが、OICを訪れる人々を歓迎しようが.....あなたがするすべてのことは、神の栄光のための実を結ぶために、聖霊があなたの中にイエスを引き起こしてくださることを必要としているのです。

さて、(エペソ 4.11) ミニストリーのリストは、実際にイエスが教会に与えた人々です。その具体的な召しには、実りある結果を達成するための特別な賜物が必要です。上に挙げたような特定の「役職」を持たずに奉仕するクリスチャンも、神の良い結果をもたらすために、同じようにキリストの霊を必要としています。この召しに従うクリスチャンは、必ずしもフルタイムの聖職者ではありませんが、多くの場合、そうなります。

奉仕やミニストリーのためのこれらのタイプや役職を順番に列挙すると： 1) **使徒たち**：パウロ自身や最初のイエスの11人の使徒たちのように、イエスを直接見た人達で、そのような人たちはこれから起こされることはないでしょう。パウロが言う「使徒」は、「福音を宣べ伝えるために送り出された者たち」を意味します。 2) **預言者**：イエスから御霊によるメッセージを受け取るか、会衆の他のメンバーが異言(学ばない天の言葉)で話した後にメッセージを解釈するために、御霊のカリスマ的賜物を持っていないクリスチャンたちです。 3) **伝道者**：罪人の心に大きな影響を与える福音を公に宣べ伝える賜物を持つクリスチャンです。 4) **牧師**：羊飼いの長であるイエスの下で、イエスの羊を導き養う羊飼いとして召された賜物を与えられたクリスチャンです。 5) **教師**：神の御言葉を教える賜物を与えられたクリスチャンです。

キリストから人へのこれらの賜物を与えられた目的は、(エペソ 4.12) に示されています：「12それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、」これは大変な責任であり、神の賜物と召命なしに、神の頻繁で忠実な励ましなしに、これらの役職に就くことを簡単に決めてはいけません。信徒は神の栄光のために多くの賜物を持つことができますが、預言を除いて、その賜物を働かせるには、地方教会組織の中での地位が必要です。クリスチャンがイエスの召命に応え、これらの「役職」に任命されるとき、そのクリスチャンはさらなる力、すなわち「人による教会における力」を受けます：使徒、預言者、伝道者、牧師、教師。彼はより大きな力、「人による教会の力」を受けます。このように召された者には、神がより多くのことを要求されるので、このようなことが起こるに違いないのです。イエスに召され、本当に「人による教会の力」の役職に就くことは、素晴らしくもあり、恐ろしくもあり、興奮することでもあります。

これらの男女は、(エペソ 4.12) に書かれているように、主の民を奉仕の業に備えさせることを第一の優先事項、仕事としています。主の民とはイエスの民のことです！ 彼らの仕事は、教会の仕事をするのではなく、他の人々にその仕事をさせるために整えることです。ご想像の通り、それには多くの働きが必要です！ そのためには、しばしば一対一の訓練と弟子訓練が必要となります。私たちは、イエスが1世紀に使徒たちが世界をひっくり返すことを可能にした方法を覚えておかなければなりません。これらの使徒、預言者、伝道者、牧師、教師の労苦の目標と望ましい結果は、キリストの体が建て上げられることです。教会が成長することと、クリスチャンが成熟することのバランスは、神のみぞ知るものです。教会が健全な教会であるためには、その両方が公平に保たれていなければなりません。不健全な教会はすべて滅びます！ 遅かれ早かれ。

#### 教訓 その4

使徒パウロからエペソ人への手紙は、神の御子の教会における一致と多様性の両方に対する神の願いを教えています。ここで言う多様性とは、民族的なものでも、あらゆる国のものでもなく、イエスが不完全な男女に与える様々な賜物であり、羊の数と成熟を築き上げるためのものです。教会が健全な教会であるためには、「教会の成長」と「成熟」の両方が公平に保たれていなければなりません。不健全な教会はすべて滅びます！ 遅かれ早かれ。

さて、健全な教会とはどのようなものかを、パウロは次のように描いている(エペソ 4・13)：「13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」人々がイエスの呼びかけに応え、教会での役割や役職を受け入れるとき、神の霊は彼らの不完全ながらも献身的な努力によって結果をもたらす、それは本当に「人々による教会の力」となります。キリストのからだの一員として、聖霊と互いに協力し合うことで、地方教会は新幹線のように、より速く、より速く、向かっていくのです：1) 信仰における一致、2) 神の御子についての知識、3) 成熟する。

教会におけるこの進歩の軌跡は、そのすべてのメンバーの中に、キリストの一切が満ち満ちたもの生み出します。これは罪のない完全さではなく、天においてのみ完成するものです。しかし、キリストの完全さは、教会員が恵みから恵みへ、栄光から栄光へと生きることによって達成されます！

(エペソ 4.14-15) で、パウロはクリスチャンに、良い結果を得るためにこの道を歩み続けるよう勧めています：「14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。」

キリスト教は宗教ではなく、神の独り子であるイエスを通しての神との関係です。しかし、新しく生まれ変わったクリスチャンは、キリストにあって成熟するにつれ、知的にも実験的にも学びのプロセスを始めます。人間の赤ちゃんがおむつを必要とするように、多くの若いクリスチャンも同じような葛藤を抱えているように見えます。しかし、「人



による教会の力」の源である指導者たちがいます。パウロが設定した軌道上の地方教会の影響は、若いクリスチャンも年配のクリスチャンも安定させます。パウロは皮肉屋でも世間知らずでもなかったのです。彼は、エルサレムに戻って律法の伝統にしがみついているユダヤ人クリスチャンはもちろんのこと、宣教の旅で偽りの教えに立ち向かった経験があります。彼が（エペソ 5 : 15）で書いたように：「15 そういうわけですから、賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、」これは明らかに、特に若いクリスチャンが信仰を守る妨げになります。

さて、パウロは、会衆に「してはならないこと」だけを伝えるという大きな間違いを犯すような人ではありません。解毒剤あるいは癒しの薬を（エペソ 4. 15）で示しています：

「15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。」パウロは言いませんでした。「むしろ、誰かの感情を傷つけないように真実を隠した」とは言わなかったのです。アメリカ人と日本人の態度を比較するのは大げさだが、お許しいただきたい。アメリカのクリスチャンは、愛をもって真理を語る時に十分注意しない傾向があります。日本のクリスチャンは、愛をもって真理を語る時に慎重すぎる傾向があります。パウロは私たちに、いわば「幸せな中庸」を見つけるようにと語っています。地方教会の中で教会員が沈黙することは良い事ではないのです。

ブルース牧師、クリスチャン仲間に必要な真理を語ることに違和感を覚えるとき、どうすればいいのでしょうか？（詩篇 127. 1）を思い出してください。「1 主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなしい。主が町を守るのでなければ、守る者の見張りはむなしい。」家、都市、あなたの魂の神殿、地方教会はすべて、この聖書の教えの下にあります。イエスにあなたの問題を知らせておきなさい！ そうすればイエスは、必要な真理が語られるのを妨げることなく、あなたを導いてくださるでしょう。

私たちクリスチャンが、「人による教会の力」をもつ指導者たちの助けを借りて、成長と成熟の道を歩み続けるなら、パウロが（エペソ 4. 15）で述べたように、「奇跡的に」そう見えるようになります。私たちは、あらゆる点において、頭であるキリストの成熟した体となるように成長します。その時（エペソ 4 : 16）：「16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」

親愛なる OIC の聖徒の皆さん... そう、これは不可能に聞こえます。しかし、私たちの神は、御言葉に従って不可能の領域に踏み込む勇気を持つ神の子どもたちを愛しておられます。パウロがエペソの信徒に指示したように、より完全な OIC 教会のためにあえて神を信じることは不可能に思えますが、それは神の御言葉から外れたことをするものではありません。失われ、滅びゆく日本に対する私たちの心の慈しみは、私たちの「小さな信仰」にもかかわらず、不可能なリスクを冒すように私たちを動かすはずです。

ある大金持ちの青年支配者が、イエスに従わずに自分の富をすべて持ち続けることを選んだとき、イエスは弟子たちに衝撃を与えました（ルカ 18. 23-27 : 「23 すると彼は、これを聞いて、非常に悲しんだ。たいへんな金持ちだったからである。24 イエスは彼を見てこう言われた。「裕福な者が神の国にはいることは、何とむずかしいことでしょう。25 金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」26 これを聞いた人々が言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」27 イエスは言われた。「人にはできないことが、神にはできるのです。」」

祈りましょう！

### 参考文献

AMPC , & AMP- Amplified Bible,& Classic Edition

Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation

KJ21- 21st Century King James Version (KJ21) Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

MOUNCE - The Mounce Reverse Interlinear™ New Testament Copyright © 2011 by William D. Mounce. Used by permission. All rights reserved worldwide.  
“Reverse Interlinear” is a trademark of William D. Mounce.

NIVUK - Holy Bible, New International Version® Anglicized, NIV® Copyright © 1979, 1984, 2011 by Biblica, Inc., Used by permission. All rights reserved worldwide.